

令和6年度 第1回松本市教育文化センター専門委員会 会議録

日時：令和6年5月21日(木) 午後3時30分～午後5時
場所：教育文化センター 206会議室

【出席者】

委員 原委員長、小林委員、元田委員、小泉委員、朝倉委員
事務局 小西教育政策課長、一ノ瀬科学博物館長、川野指導主事
小池指導員、鈴木指導員、大池旧山辺学校館長

【会議内容】

1 開会

2 委嘱状交付

3 教育政策課長あいさつ

教育文化センターでは、昭和58年の開館以来、市内の小中学生を対象に教文学習を実施してきた。令和4年度より、名称を「アルプスタディ」と改めて児童生徒の学びの起点づくりとして実施している。また、アルプスタディから広がる学校の探究的な学びを支える取り組みとして「探究パック」も進めてきた。この探究パックは昨年度の委員の皆様にも全面的に協力いただき、各学校の授業づくりに活用していただいている。本日は、令和6年度のアルプスタディと探究パックについて、事務局から説明をして、松本市内の各校の教育活動にとってより役立つものとなるようにしていきたいと考えている。

4 自己紹介

5 会議事項

(1) 教育文化センター専門委員会について

ア 設置の趣旨

設立以来、市内全学校から推薦された先生方に教材開発や展示内容の更新をしていただいていたが、3年前より人数を厳選して活動している。専門委員の先生方にも委員としての活動を通してさらに研鑽を積んでいただけるようにと考えている。

イ 活動内容

委員のうち、主に管理職の先生にはアルプスタディを視察、改善に向けたご意見をいただく。教諭の先生方には自校で探究パックを実践し、内容について意見を出していただくとともに、市内各校に向けて成果を発信することにご協力いただく。その他、教文の事業に関して提案していただき、企画・運営、制作等に携わっていただく。

(2) 令和6年度アルプスタディについて

ア 実施内容

- ・ 探究的な学びを体験し学校での探究のきっかけとなるよう講座内容を検討
- ・ 引率外の先生にも学びの場として参加していただける取り組みや、保護者の方に参加していただけるしくみを整備
- ・ 探究的な学びを進め、ICTの活用を推進していく観点から、子どもたち全員に一人一台のタブレット端末を持参してもらう

イ 意見

(委員)

- ・ アルプスタディでは探究的な学びを全面に出していてありがたい。さらに、子どもがやりたい課題をじっくりできるように教材の数を揃える等環境づくりにも力を入れてほしい。
- ・ 昨年度やってみて、時間的に事前学習に丁寧に取り組むのが難しかった。準備されて

いるものはとても面白く、子どもたちも目を輝かせてやっていたが、与えられているものになってしまうし、時間で切られてしまう。子どもがやりたい課題を選んで半日とかじっくり取り組むことができるといいと感じた。

(事務局)

- ・ ニーズに合わせて、じっくり取り組むコース等検討していく。

(委員)

- ・ 学校現場では探究的な学びについて模索している現状がある。アルプスタディや探究パックは、先生方にとって子どもの問いをどう生み出していくか、深めていくか等探究的な学びについて考える研修の場になる。専門委員としても視察を通して「授業者の問いかけ」や「教師の出」のあり方等を一緒に考え、自校にも還元していきたい。
- ・ アルプスタディは全ての学校に行うので、いろいろなパターンで授業を試して、どういときに探究の姿が見られた等のデータの蓄積ができると、学校にフィードバックできるのではないかな。

(3) 令和6年度探究パックについて

ア 実施内容

- ・ アルプスタディの事前・事後でも活用できる上高地の岩石等の地域素材やプログラミング教材、プラネタリウムの番組制作ソフト等、学習向けに研究された教材の活用をとおして、探究的に学べる授業づくりを指導主事や指導員が関わって支援するもの
- ・ アルプスタディでの教材研究の成果を探究パックに取り入れ、学校では理科だけでなく、総合的な学習の時間等、学校のニーズに合わせて活用されている。
- ・ 学校向けだけでなく、公民館や教職員など大人の市民向けにも実施
- ・ 県内の他地域からも問い合わせが来ている状況
- ・ 松本市と包括連携協定を結ぶセイコーエプソンと連携しながらプロジェクターを活用した授業や学校行事の取り組みの支援を実施

イ 意見

(委員)

- ・ 探究パックはアルプスタディ等で研究された教材を利用して授業づくりができるので、専門委員に限らず、校内の先生と相談してニーズに合わせて活用したい。
- ・ 床にうつすプロジェクターを校外学習の前後活用するのもよいと思った。

(4) 今後の予定

ア 管理職の委員はアルプスタディを視察いただき、改善に向けた意見をいただく。

イ 教諭の委員は自校で探究パックを実践し、市内各校に向けて成果を発信していただく。

6 閉会